

# 1 号議案

## 平成 30 年度事業報告

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

### 1. 第2回定期総会の開催

平成30年7月20日に「第2回定期総会」を日比谷図書文化館において開催しました。総会では、事業計画（案）、予算計画（案）が討議され、承認されました。

### 2. 第2回定期総会研修会の開催

第2回定期総会の後、研修会を以下の通り開催しました。（42名参加 内非会員24名）

(1) 日時 平成30年7月20日 午後2時00分～4時40分

(2) 会場 日比谷図書文化館

(3) 内容

① 基調講演「土壌微生物の特徴と診断、対策」

外部講師 片倉コープアグリ株式会社技術顧問 土壌の会全国協議会会長

野口 勝憲 様

② 研修 「GAP認証と土づくり、施肥管理～土壌医として何が問われるか～」

内部講師 首都圏土壌医の会事務局長

多田 誠

### 3. 現地研修会の開催

現地研修会を以下の通り開催しました。（18名参加 内非会員8名）

(1) 日時 平成31年3月27日 午後1時05分～5時15分

(2) 会場 埼玉県深谷市 首都圏土壌医の会会員圃場

(3) 内容

① 講師 外部講師 東京農業大学 農芸化学科土壌肥料研究室 加藤 拓 先生

内部講師 副会長 谷田貝 敦

② 研修概要

同一圃場内（土壌の理化学性は大きく異なる）で明らかな収量差のあるナス圃場（跡地）を調査対象としました。理化学性だけでなく土壌病害等による差でもなく、土壌断面調査が特に有効な事例でした。昨年度の研修とは違い、今回は試坑場所の選定や

穿つところから研修者自らが行うことで現場対処能力の向上を狙いました。「下層の土壌構造の違いから水の浸透に差が生じ、結果としてナスの生育収量に差が出た」ことを明らかにしました。

#### 4. 土壌医検定受験演習研修会（首都圏土壌医の会、鴻巣土壌研究会共催）

土壌医検定受験演習研修会を、以下の通り試行実施しました。

（2級4名、3級19名参加）

（1）日時 平成30年12月1日～平成31年2月2日の間  
2級対策6回 3級対策6回 それぞれ2時間程度

（2）会場 埼玉県鴻巣市市民活動センター

（3）研修内容 土壌協会テキスト解説および模擬問題による演習

#### 5. 研究部会活動

（1）市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会（現部員10名）

6回開催し、市民農園、体験農園の訪問や園芸福祉協会の訪問等を通じ、小規模圃場の問題点などの情報収集を行うとともに、各会員が、それぞれの土壌についての取り組みを発表し、相互に情報交換を行いました。また、pH、ECの簡易分析の経験を積みました。しかし、「市民農園等小規模圃場の土作りマニュアル」の作成には踏み込めませんでした。

- ・【第1回】2018年5月18日 ちよだプラットフォームスクエア：部会員4名出席  
内容：研究部会を進めるにあたり、市民農園等小規模圃場の定義、市民農園関係団体等に対するヒヤリング、小規模圃場の土づくりマニュアル作成等について検討
- ・【第2回】2018年6月5日 日本園芸福祉協会事務所 新宿区薬王寺：部会員5名出席  
内容：日本市民農園連合事務局長の粕谷氏に市民農園の土作りに関する現状の問題点や事例等についてヒヤリング
- ・【第3回】2018年7月8日 千葉市萩台市民農園：部会員6名出席  
内容：日本市民農園連合会長の廻谷氏の所属する市民農園の見学および会長から萩台市民農園の沿革、市民農園での土づくり等ヒヤリング
- ・【第4回】2018年11月11日 神田岩本町貸会議室：部会員7名出席

内容：各自の土づくりの取り組みについて発表1（発表者 会員 鈴木氏、高野氏、山田氏） pH、ECの簡易分析

- ・【第5回】2018年12月9日 神田駅前 貸会議室：部会員8名出席

内容：各自の土づくりの取り組みについて発表2（発表者 会員 芹澤氏、石田氏、多田氏、岩田氏） pH、ECの簡易分析

- ・【第6回】2019年1月20日 農業体験農園「緑と農の体験塾（加藤農園）：部会員4名、一般会員1名、土壌協会1名、その他1名出席

内容：体験農園を見学。加藤農園加藤氏より、体験農園の仕組み、土づくりなどについてヒヤリング

## (2) 土壌図活用研究部会（現部員5名→退会により3名減）

2回開催しましたが、データの取扱い（基礎学習）やツール検討の域を越えませんでした。

- ・【第1回】2018年7月4日（一財）日本土壌協会会議室：部会員5名、土壌協会3名出席

内容：PCによる土壌図データのデモンストレーション、土壌診断への土壌図活用ポイント等

- ・【第2回】2018年9月21日 日比谷図書文化館：部会員8名、他2名、土壌協3名出席

内容：「土壌図データから何が分かるか」土壌情報研究会・加藤 好武 先生

フリーソフト「聞き書きマップ」の土壌図活用への検討等（土壌協会・高橋様、越谷様）

## (3) 簡易土壌分析研究部会（現部員8名）

世の中にある様々な土壌分析器（主に化学性）の比較調査を行い、土壌医としての活躍のきっかけとなるような知見の蓄積を行うことを目標としていましたが、部会を開催することなく年度末を迎えてしまいました。活動内容に賛同し参加の意思表示を頂いたメンバーの方々にはお詫びいたします。大上段に構えず基本的なことから素朴な疑問に答えるところからやり直したいと考えておりメンバーに対してのアンケートを実施するところから再出発したいと思っています。

## (4) 土壌医検定試験対策講習会研究部会（現部員2名）

3回開催しましたが、本来の目的である3級用講師用指導書や、模擬講習会を実施することができませんでした。他方、2級・3級用の講習会での独自の配布資料をそれぞれの級の担当者が作成することが出来ました。また、土壌医検定試験後に講習会参加者を対象とした簡単な土壌診断の勉強会を行いました。

- ・【第1回】2018年10月29日（月） 鴻巣市市民活動センター 部会員2名出席

内容：試験対策講習会の開催場所、日程、講習会の内容について検討

- ・【第2回】2018年11月14日（水） 鴻巣市市民活動センター 部会員2名出席  
内容：講習会の講義内容や配布する資料の作成方法について検討
- ・【第3回】2019年3月10日（日） 鴻巣市市民活動センター  
部会員2名出席、講習会参加者9名出席  
内容：参加者が利用している土壌や培養土のpHやECの簡易分析の勉強会を実施

## 6. 「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業への参加

事業の会員への周知は十分ではありませんでした。本会会長が事業の依頼を受け1事業を実施しました。

## 7. 平成30年度土壌医検定試験準会場設置

鴻巣市において準会場を設置し、受験対策講習会の受講生を中心に、26名の受験がありました。取り組みを通じて、検定受験者の掘り起こしが可能であるとの認識を得ました。

## 8. その他

### (1) 行政等が行う研修会等の開催情報の提供

メーリングリストを作成し、情報を提供しました。

### (2) ホームページを活用した、首都圏土壌医の会の活動の発信

活動を発信することが十分できたとは言えませんでした。

### (3) 理事会などのオンライン会議採用の検討

検討が進みませんでした。

## 9. 総会・理事会に関する事項

開催日	種類	会議事項
2018年6月23日	第11回理事会	第2回定期総会議案検討、試験対策講習会研究部会について
2018年7月14日	第12回理事会	第2回定期総会議案検討
2018年7月20日	第2回定期総会	第2回定期総会、記念研修会
2018年10月31日	第13回理事会	研究部会の今後の進め方について（各研究部会）
2018年12月19日	第14回理事会	事業計画の進捗確認、次年度検討事項確認（研究部会の予算化、理事の増員）、全国協議会報告
2019年2月17日	第15回理事会	事業計画の進捗確認、第3回定期総会開催日程について



## 2号議案

### 平成30年度首都圏土壤医の会 会計収支実績

#### 1. 平成30年度の予算計画時と実績の差異について

平成30年度については平成29年度の活動実績と事業計画を鑑み以下の方針で予算を編成した。なお業計画遂行後に余剰が生じた場合は、本会収入に繰り入れることとした。

##### (1) 収入

①活動費 2018年7月10日時点の会員39名を基本に年度2000円/名としたが、退会者があり38名から2000円の年間活動費収入があった、年度途中入会者2名を迎えることができたため対予算600円の収入増であった。

②研修会等参加費 2回の現地研修会での参加費を前提に予算化したが実際には1回の開催にとどまった、しかし定期総会研修会に想定以上の非会員参加者を得ることができ対予算6500円の収入増であった。

##### (2) 事業計画項目ごとの費用の考え方の予算・実績

①第3回定期総会 活動費により対応した。

②第3回定期総会研修会 参加費の範囲内で対応できた。

③土づくり現地研修会 参加費の範囲内で対応できた。(会員からも1500円の参加費徴収、事務経費は発生せず、講師謝礼のみが発生した。)

④土壤医検定対策講習会 研究部会内で対応し本会からの出費はなかった。

⑤各研究部会の活動経費に関しては各々の研究部会内で支弁した。

⑥土壤医試験準会場設置を行ったが予算策定時は設置事業として収支が赤字にならないようにするという方針で臨み本会としての補助については行わなかった。実績としては収支200円の余剰が出たため本会へ雑収入として収入扱いとした。

##### (3) 一般事務費 活動費の範囲内で対応することとしていたがその範囲内となった。

①印刷費 今年度は発生しなかった(定期総会資料は研修会資料として参加費から出費した)

②通信費 サーバーレンタル代のみ発生した。

③役員交通費 一人1回の理事会で1500円を想定、会議6回としたが全員が辞退した。

④会議費 予算化していなかったが理事会レンタル会議室を使用したために実費が発生した。

#### 2. <実績>

2018年度実績					
収入		支出			
活動費	78,600	第2回定期総会	印刷費		5,588
研修参加費	61,500	第2回定期総会記念研修会	会場費(備品含む)		12,000
			講師謝礼(交通費)		0
			小計		17,588
		土づくり現地研修会	会場費		0
			消耗備品費		0
			レンタカー代		0
			講師謝礼(交通費)		10,000
			小計		10,000
		一般事務費	通信費		4,860
			会議費		8,640
			その他(振込手数料)		432
			小計		13,932
雑収入	201	懇親会	店舗支払		35,520
懇親会費	35,000				
収入合計	175,301	支出合計			77,040
2017年繰越	93439	単年度 差額(次年度繰越)			98,261
		累積繰越金			191,700

◆(一財)日本土壤協会へ納入する年会費については当会が徴収代行しているだけであり収入とはなりません。会員から預かり(一財)日本土壤協会からの請求により支払っています。

## 3号議案

### 令和元年度事業計画(案)

自 平成31年4月 1日

至 令和 2年3月31日

#### 1. 首都圏土壤医の会をめぐる現状と活動方針

##### (1) 首都圏土壤医の会を巡る状況

農林水産省は、平成31年3月7日に、「土づくりコンソーシアム」を設立しました。ここでは、現場での土づくりの普及のために、土壤医の役割がしっかりと位置付けられています。また、土壤医の会全国協議会では、地域土壤医の会の活動に対する支援制度が出来ました。

首都圏土壤医の会の会員は、新規加入3名、退会2名があり、昨年度末には正会員32名、準会員9名となっています。今後、会の活動を活発にしていくためには、さらに会員の拡大を図っていく必要があります(土壤医試験の結果発表後4月以降の入会申し込みは6名います)。退会の理由は、退職、転勤でありましたが、首都圏土壤医の会の加入メリットが具体的に見えないことも理由の一つと考えられます。一方で、検定試験対策講習会の実施および検定準会場の設置は、会員の新たな獲得と土壤医および土壤医検定の認知度向上に有効であったと考えられます。

##### (2) 活動方針

今後、会員のメリットを充実し会員の拡大を図っていくためには、会員の研鑽機会を増やすことと活躍の場を拡げていかなければなりません。このためには、昨年度に引き続き研修会の充実、研究部会の活発化、検定試験対策講習会の実施、準会場の設置、交流会の実施等の会員の参加できる取り組みを充実拡大させることが必要です。さらに、これらの活動を資格登録者にネット等を活用して周知し、また、対外的にも首都圏土壤医の会の活動を紹介し、会の認知度を上げていく必要もあります。しかしながら、現在の体制では限界があります。今年度は、土壤医の会の体制を含め首都圏土壤医の会の今後のあり方について検討していきたいと考えます。

なお、首都圏土壤医の会の活動を行うにあたり、全国協議会の支援制度について、その効果を見極めつつ活用を検討します。

#### 2. 会員の研鑽の場および活躍の場の提供

##### (1) 第3回定期総会修会の実施 (予定)

- ① 日時 令和1年6月14日 午後2時～午後4時30分
- ② 会場 日比谷図書文化館
- ③ 内容

- 基調講演「腐植ならびに腐植物質を活かす土づくり」

東京農業大学 農芸化学科 土壤肥料研究室 加藤 拓 先生

- 土壤医活動事例発表 「水稻、ナスの収量・品質低下等に対する土壤診断による改善の取組み《付：葉菜類の育苗改善》」

首都圏土壤医の会 副会長 谷田貝 敦

## (2) 現地研修会の実施（説明：谷田貝）

今年度は、年度内に2回の実施を予定しています。

### ① ペドロジー的視点からの研修（土壤図活用研究部会との共催）

土壤医資格登録者の多くに欠落しがちな「土壤そのもの」に関する知見を深めていきます。

貴重なモノリス（土壤断面標本）を活用した研修を含め、まずは埼玉県を中心に学習します。

・最寄駅からタクシー等で容易にアプローチできる会場を計画中です（徒歩20分以内）。

### ② 作物栽培に密接な研修

これまでも「山梨県富士吉田市」や「埼玉県深谷市（2回）」で実施した、作物生産と密接な現地研修を行います。原則として首都圏内での開催です。

・現地指導に資するための研修とするため、参加者自らの作業は必須で且つ会場の条件は限定的となりますがご了承願います。

## (3) 研究部会活動

研究部会は、テーマごとに研究・情報交換等を行うもので、正会員の申出にもとづき設立することが出来ます。会員の積極的な研究部会の設立を期待します。（詳細、研究部会規程、研究部会運営指針）

モデル研究部会として理事が申し出して設立した部会の活動は、今年度は以下のように取り組みます。

### ① 市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会 （説明 高山）

今年度は、実際に「市民農園等小規模圃場」に出向き pH、EC の簡易分析等の土壤調査を実施し、土壤調査のノウハウを蓄積します。また、土壤に関する勉強会も継続します。

「市民農園等小規模圃場の土作りマニュアル」の作成については、内容の構成を含め、検討を継続していきます。

なお、4月28日に今年度第1回研究部会を開催し、会員の土づくりの取り組み発表と pH、EC の簡易分析に取り組み、研鑽を深めました。

### ② 土壤図活用研究部会 （説明：谷田貝）

土壤図に関しては（一財）日本土壤協会による新たな活用方法の提案等や、単純なダウンロード可能サイトとして「土壤インベントリー（農研機構）」が存在するなど、既に多くの方々が独自に活用している実態があり、一方で、基盤整備等により土壤図（表層）に単純には合致しないエリア等も広がっています。

今年度は国内でも有力なペドロジー専門家によるご指導を受け、土壤医資格登録者（1～3級）や農業経営者（中・大規模）の目指す「土壤図活用法」を検討していきます。10月以降、研修会を3回予定しています。部会員各位に改めて連絡いたします。

### ③ 簡易土壤分析研究部会（説明 多田氏）

H30年度の総括でも述べたとおり身近な疑問に応えることや簡易土壤分析機のメーカーとの交流などを企画することを検討します。年度末のアンケートへの要望事項は無い状況でしたので回答しやすい具体的なアンケートをデザインするところから始めようと思います。部会員各位のご協力を頂きますようお願いいたします。

### ④ 土壤医検定試験対策講習会研究部会（説明 藤森）

新たな講師希望者が現れない現状から、当面休止とし、希望者（将来的希望者を含む）があった場合、部会を再開いたします。

#### (3) 技術懇話会

今年度から新たに、技術懇話会を開催します。技術懇話会とは、会員による「土づくり関連」情報の提供・発表と参加者との意見交換を行うものです。詳細については、追ってメーリングリストでご連絡いたします。（説明 谷田貝）

#### (5) 土壤医検定試験対策講習会の実施

今年度は個別事業として土壤医検定試験対策講習会の実施を検討します。昨年度実施した埼玉県鴻巣会場のほか、他都県で実施の可能性を探ります。

#### (6) 令和元年度土壤医検定試験準会場設置

昨年実施した鴻巣での準会場の設置の他、他都県での設置が可能かどうか、試験対策講習会の開催と合わせて検討します。

#### (7) 「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業への参加

首都圏土壤医の会は、「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業の協力団体となっており、その内容について会員への周知を行います。

## 3. その他

#### (1) 行政等が行う研修会等の開催情報の提供

会員の研鑽等に資すると考えられる研修会等の情報を、メーリングリストを使って会員に提供します。

#### (2) ホームページを活用した、首都圏土壤医の会の活動の発信

現地研修会の内容、研究部会の活動等をホームページに載せて、首都圏土壤医の会の活動を発信していきます。

# 4号議案

## 令和元年度首都圏土壌医の会予算（案）

### 1. 令和元（2019）年度の予算計画の考え方

令和元年度については平成30年度の活動実績と事業計画を鑑み以下の方針で予算を編成する。  
なお業計画遂行後に余剰が生じた場合は、本会収入に繰り入れる。

#### （1）収入の考え方

- ①活動費 5月31日時点の会員40名を基本に年度2000円/名とする
- ②研修会等参加費 2回の現地研修会について前年の実績から会員15名、非会員10名の参加があるものとして会員500円、非会員2000円の参加費を想定する。

#### （2）事業計画項目ごとの費用の考え方

- ①第3回定期総会 活動費により対応する。
- ②第3回定期総会研修会 参加費および活動費により対応する。
- ③土づくり現地研修会 参加費の範囲内で対応する。
- ④土壌医検定対策講習会 参加費の範囲内で対応する。
- ⑤各研究部会の活動経費に関しては各々の研究部会内で支弁することとする。
- ⑥土壌医試験準会場設置をする場合には設置事業として収支が赤字にならないようにすることとし、本会としての補助については理事会での検討事項とする。（予算化しない）

#### （3）一般事務費 活動費の範囲内で対応する。

- ①印刷費 印刷機トナー、FAX印字インク、印刷用紙など
- ②通信費 ドメイン維持費、サーバーレンタル代など
- ③役員交通費 一人1回の理事会で1500円を想定、会議6回
- ④会議費 レンタル会議室代として1回2時間4500円を想定、会議6回

### 2. <予算案>

2019年度予算(案)					
収入		支出			
活動費	80,000	第3回定期総会	印刷費		6,000
研修参加費	55,000	第3回定期総会研修会	会場費(備品含む)		12,000
			講師謝礼(交通費)		10,000
			小計		28,000
		土づくり現地研修会(2回)	会場費		8,000
			消耗備品費		4,000
			講師謝礼(交通費)		20,000
			小計		32,000
		土壌医検定対策講習会			0
		一般事務費	印刷費		4,000
			通信費		8,000
			役員交通費		36,000
			会議費		27,000
繰越金	191,700		小計		75,000
収入合計	326,700	支出合計			135,000
			差額(次年度繰越)		191,700

以上

## 5号議案

### 役員改選について

首都圏土壤医の会規では役員（会長、副会長、理事、監事）の任期は2年となっており現役員の任期は今定期総会の終結の時までということになっています。

会長、副会長は理事会にて理事の互選にて選任することとなっており。今総会では理事と監事を選任することになります。現時点では以下の会員が理事、監事としての任にあたることの意味表示をしています。

高山 晃（現 会長）

谷田貝 敦（現 副会長）

多田 誠（現 理事（事務局長））

藤森 利雄（現 理事）

山田 裕臣（現 監事）

〇〇 〇〇（新理事）

以上